



発行：小網代ヨットクラブ  
〒238-0225  
神奈川県三浦市三崎町小網代 1385-18  
編集：広報委員会  
編集長：里吉美恵子

# 小網代通信

2020年 6月号 VOL-264

## 今月の内容

|             |              |        |
|-------------|--------------|--------|
| ・連絡事項       | 編集委員         | 1ページ   |
| ・「飛車角・新艇紹介」 | 服部 栄二郎 (飛車角) | 2～3ページ |

### 連絡事項 (編集委員)

#### 1. < クラブハウス利用について >

緊急事態宣言解除になりましたが、コロナ禍でのクラブハウス使用はもう暫くお控えください。今後の使用方法については検討中です。使用解除が決まり次第、KYC ホームページで通知いたします。

#### 2. < 新型コロナウイルス対策で強アルカリ電解水をクラブハウスに設置しています >

掃除用とメンバー各位に除菌・消毒をしていただくため各所に容器を設置いたしました。入口のドアノブ、屋外ベンチやテーブルや椅子の背もたれ、水道の蛇口などの使用で接触される場合に使用していただくためです。トイレだけの使用の出入りの際はメンバーご自身のアルコール消毒のシートやジェルなどで手を除菌してから施設の使用をしていただくことをお願いいたします。是非ともこの新しい習慣、手を洗う、マスクをつける、そして3蜜(密集・密接・密室)にならないようお願いいたします。



#### ■クラブハウスで使用している強アルカリ電解水について ▼ KYC 会長 飯島洋一▼

新型コロナウイルス対策の一つとして強アルカリ電解水をクラブハウス内に置いてあります。強アルカリ電解水“アルファウォーター”という製品で、飛車角の服部様より寄贈して頂きました。(https://www.alphachem.jp/) 本来は掃除用途ですが、除菌効果も期待できるとのことです。消毒用アルコールの入手が困難な状況では大変ありがたく、原液を20倍に希釈して設置してあります。この状態での効果持続時間は半年から1年程度とのことです。(継続してphを測定する予定です。)使用上の注意は設置したボトルに添付した説明書をご覧ください。

#### 3. < イベント 中止 …6月 KFR(ハーバー整備) 8月予定の「夏祭り」 >

地元のイベント中止要請により中止といたしました。



【小網代ヨットクラブウェブサイト情報】 URL <http://koaziroyc.jp>

【次回予定 総務委員会 日程・開催方法未定 問い合わせ等は、[office@koaziroyc.jp](mailto:office@koaziroyc.jp) へご連絡ください。】

## < 飛車角 ・ 新艇紹介 >

飛車角 服部 栄二郎

“飛車角”が、2020年(令和2年)6月1日より新艇【5代目】になりましたのでご紹介いたします。

船の小型船舶登録上は、4月30日に名義変更が完了していましたが、中古艇ということもあり、お化粧直しを行うために上架整備を行っていました。そのため小網代湾に登場するまで一月程度時間がかかりました。今後、正式に東部漁港事務所の厳密なる採寸の後、小網代湾への停泊許可を受ける事になっていますが、コロナ禍の影響もあり、6月8日現在では暫定許可による係留になっています。

艇は、フランス国Beneteau社製 First40.7 の中古艇です。クラブ内の同型艇は、アレクサンドラ、テティス、ナジャとなり、合計で4艇の同型艇が湾内に浮かぶことになります。どの船も気品に満ちたオーナー諸氏により管理・運営されています。”飛車角”としても心機一転、艇の運営、並びに整備にこれまで以上に精進して取り組んでいくつもりで、オーナー、クルー共々、日々盛り上がっている今日この頃です。

同型艇が倶楽部内に既に3艇もある事から、船のスペックに関する説明は、するまでも無いことですが、以下、購入(中古)艇の概略と購入に至る経緯を記載します。

今般入手した艇が新建造されたのは、西暦2000年2月、丁度20年前になります。前オーナーは横浜市民ハーバーを母港にする日本人。フランス・モンペリエで開催されたボート・ヨットの展示会でFirst40.7が新発売されているのを見るなり一目惚れし、間もなく艇を個人輸入したそうです。

わざわざ個人輸入までして手に入れた船には、オーナーの愛娘姉妹の名を冠し、Mana&Yuka(マナ&ユカ)と名付けました。艇はその後、娘たちを扱うかのごとく十分に手入れを施され、磨きに磨かれ、船齢20年の成熟期を迎えます。まだまだ楽しめる艇ではあるものの、このオーナーは自身の年齢を考え、今年になって断捨離を決意し艇を売りに出したそうです。

丁度その頃、4代目の“飛車角”は昨年起こした衝突事故後の修理を始めていました。ところが修理を担当した業者から、今回だけは修理不能であると引導を渡されてしまっていたのです。“飛車角”も30年間、改良に改良を重ねたクルーズ用ヨットとして、思う存分その実力を発揮できると考えていたにも拘らず、艇の買い替えを余儀なくされてしまったのです。

共同オーナーである三浦が、何気なく閲覧したネット仲介サイトで、この成熟した美艇に出会うことになるのです。善は急げと連絡を取り、連絡の翌週には現物の内見を済ませ、契約に至ります。晴れて、ヨットは“飛車角”5代目となるのです。



余談になりますが、初代“飛車角”から5代目までの流れを付け加えます。

1964年、“飛車角”の【1代目】は、渡辺修治氏設計・加藤ボート建造24.5fの(JOG)木造艇に始まります。その後、【2代目】の“飛車角”は、1967年に35fチーク艇を、初代と同じ渡辺修治氏と加藤ボートで建造します。この時のクルーが当時の鬼艇長(周東英卿)により鍛え上げられます。現在の“飛車角”のオーナーならびに中心メンバーは、この当時のメンバーがそのままスライドして来たといっても過言ではありません。艇は、【3代目】バンドフェ30fを経て1988年になって【4代目】“飛車角”のノースショア38(豪州プロダクションヨット)になります。

“飛車角”は、そのメンバークルーの高齢化と共に、クルージングに軸足を置いた艇へと変遷してきています。特に4代目の“飛車角”は、クルージングとクラブレースの両刀使いも楽しめるような堅牢な造りの中古艇を入手したということもあり、その分時間と金をかけた船になっていきました。プロペラの交換に始まり、エンジン交換、果て又セールの新調など、30年間かけて改良を重ねていきました。

現在2名のオーナーは、後輩たちの航海経験体得機会を豊富にし、小型艇を使った航海経験で基本的な艇の操作を学ばせながら、大型艇の“飛車角”をマスターさせていくという方針のもと、2019年6月に、20Feetの小型練習艇「あゆみ」を三崎マリンに用意しました。そんな渦中に母船“飛車角”が、2019年10月6日の航海訓練中に網代崎沖灯浮標に激突し、修理不能の憂いに直面したのです。オーナーの座右の銘が「乗りかかった船」である以上、これまでの流れを絶やすわけにはいきません。今般、4代目“飛車角”で描いた両刀使いのコンセプトそのままに、今回の“飛車角”【5代目】へと繋がったのです。



5代目“飛車角”です。

セール番号は、今まで通りの346です。

どうぞよろしく願いいたします。